長島町地域包括支援センターだより［No.4］

認知症予防シリーズ②

「認知症の特徴」

「認知症」は早めの受診が重要です。

「あれ？」と思ったらすぐ相談を！

もの忘れが気になったり、もの忘れをたびたび指摘されたら、できるだけ早く専門医を訪ねましょう。早めの受診を勧める理由は、次のとおりです。

○発症する前に発見できる

認知症が発症する前の段階で、脳の変化を発見できるようになってきました。

○治癒できる病気がある

一見すると認知症でも実は別の病気であって、効果的な治療法がある場合があります。

○症状の進行を遅らせることができる

認知症のひとつ「アルツハイマー病」はかつて、治療法がない病気といわれてきました。しかし今では、薬物療法や脳の活性化訓練を行えば、治癒は難しくても、記憶障害などの症状の進行を遅らせることが可能になっています。

認知症といわれているものにもさまざまな種類の病気があります。早めに診断を受けて、それぞれの病気に適した治療を開始すれば、治療効果も上がります。

アルツハイマー病

日本では、認知症の人のうち半数以上がアルツハイマー病といわれています。アルツハイマー病は脳にある種のたんぱく質がたまって神経細胞が次々と破壊され、脳の機能が損なわれていく病気です。神経細胞の減少によって、脳も萎縮していきます。

レビー小体型認知症

脳の神経細胞の中に、ある種のたんぱく質が固まって「レビー小体」ができることが、この病気の原因です。レビー小体は、パーキンソン病の原因にもなっています。それが脳の記憶などに関係する部分に出現すると認知症になります。

脳血管性認知症

認知症にはアルツハイマー病を伴わないものと、アルツハイマー病を伴う「混合型」があります。混合型は脳の血管が詰まる脳梗塞や、脳の血管が破れる脳内出血によって発症します。

脳梗塞や脳内出血を発症し脳細胞に悪影響が出ると、脳の働きが低下します。ダメージを受けるのが記憶などに関係する部分だと、認知症になります。多くの場合、脳梗塞や脳内出血の発作を繰り返すたびに症状が進行します。

アルツハイマー病とレビー小体型認知症と脳血管性認知症が

一緒になって進行するほど認知症を発症しやすくなります。多くの場合、老化とともにこれらの病気が知らないうちに脳の中で重複して起きています。したがって、日頃の生活習慣を正しく送ることが大切です。

◎問い合わせ先

長島町地域包括支援センター

☎（86）1153［直通］